

資源循環型社会の実現に向けた花王のイノベーション:プラスチック削減の社会実装

花王株式会社(藤井 健吉、原水 聡史)

花王は2018年に「プラスチック包装容器宣言」を宣言し、4R(Reduce、Reuse、Replace、Recycle)の視点で資源循環型社会の実現に向けた製品開発を推進している。環境配慮と使いやすさを両立する商品開発により、2020年には従来のボトル容器比で約76%のプラスチック削減を達成した。さらに、使用済み詰め替えパックの水平リサイクル技術も開発し新製品開発に繋げている。企業、自治体、NPO、生活者と連携を行い「リサイクリエーション」を通じたプラスチックの回収・リサイクルやアップサイクルの仕組みを構築した。これらの一連の取り組みによるプラスチック容器の削減や社会的行動変容の実現は世界的にも著名な成功例である。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

1995年からプラスチック容器の課題に取り組み、4Rの視点から技術開発を進め、容器の持続可能性を追求している。サーキュラーエコノミーの共創を通じて生活者の社会のサステナビリティに関する意識・行動変容を促し、「豊かな共生世界」の実現を目指す。

ビジョン達成の課題

サーキュラーエコノミーの実現には技術革新だけでなく、社会が自然に受け入れ継続できる制度設計の革新が不可欠である。社会システム全体の変容が求められ、他企業・自治体・生活者など多様なステークホルダーとのイニシアチブが重要となる。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

理系の専門分野に加え、社会行動学や文化人類学などの文系知も集結することにより、消費財容器のイノベーション、廃棄プラスチックのリサイクル・アップサイクル化技術、プラスチック回収システムの構築と生活者の行動変容を実現した。得られた知見は社外にも展開され、サーキュラーエコノミー実現に向けたESG視点のよきモノづくりに活かされている。



サーキュラーエコノミーシステムの社会実装

消費者製品のライフサイクルを俯瞰(ふかん)して、プラスチック削減に向けた社会全体の最適解を多様なステークホルダーと対話(総合知)、約30年を費やし社会実装

花王イニシアチブ：容器循環イノベーションの社会実装により 日常生活におけるプラスチック使用量を削減・循環型へ変容

Innovation



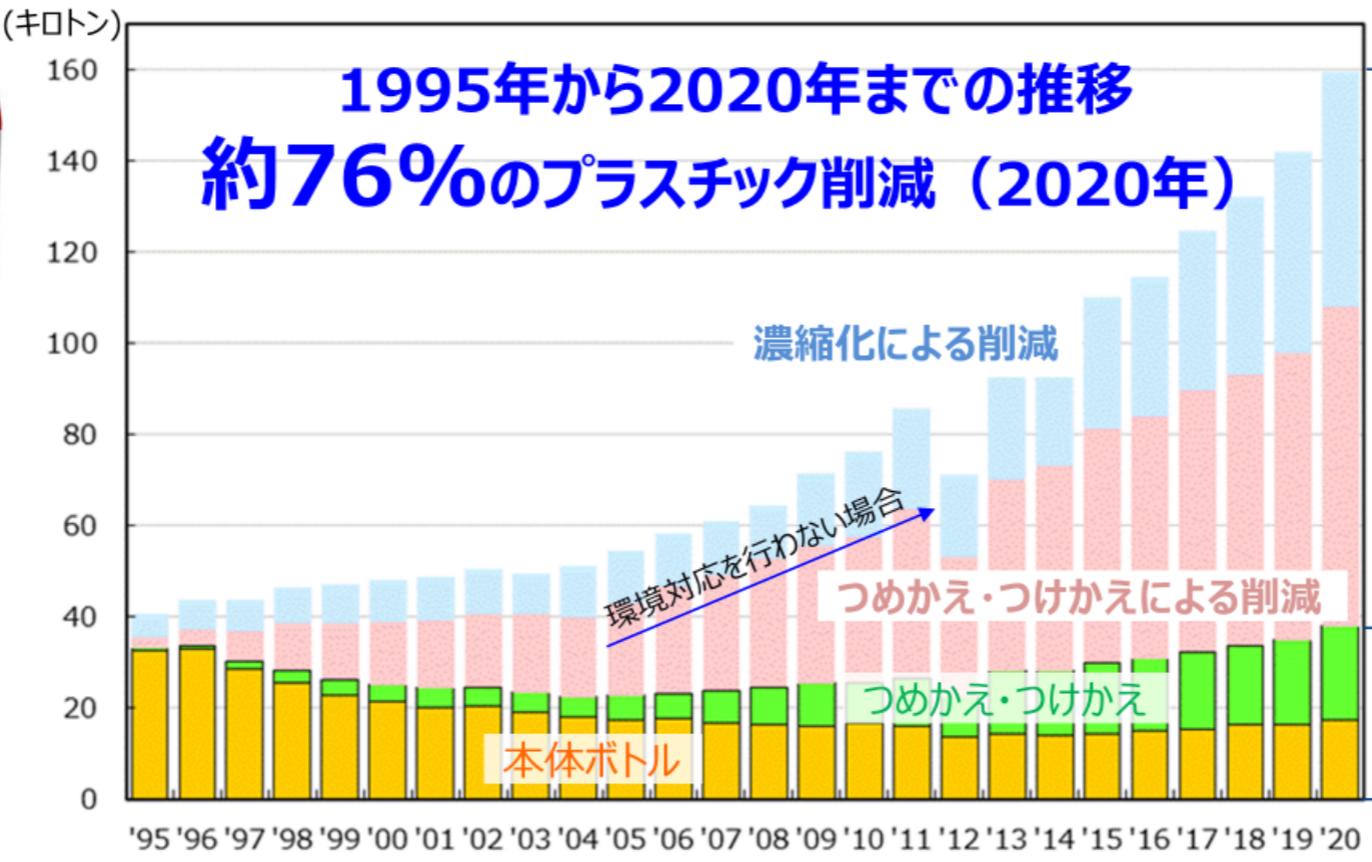
5.46g 3.23g 0.44g 0.20g
洗濯1回あたりのパッケージ重量の削減

①濃縮、②つめかえ、③大容量つめかえ：
花王の容器イノベーション、商品設計の社会実装、消費者との対話、消費行動変容

Innovation



「未来にecoペコボトル」
厚みを薄くして強度をアップすることで、ボトルタイプ
のつめかえやすさと耐久性を保ちながら、旧ボトル
に比べてプラスチックを約40%削減。



花王株式会社（日本）：ボディソープ、ハンドソープ、シャンプー、洗濯用液体洗剤、柔軟剤、食器用洗剤、住居用洗剤、漂白剤、かびとり剤のデータを使用

プラスチック使用量の削減：2020年実績
つめかえ・つけかえ・濃縮化によるプラ削減量 121.8千トン

Innovation



（左）「らくらくecoパック」
つめかえやすく、本体容器に比べて、製造から使用、
廃棄までに生じるCO2排出量も約80%以上削減

（右）「スマートホルダー」
らくらくecoパックを付け替えるだけで使用可能

Innovation



「らくらくスイッチ」
軽い力で押すだけでフィルム容器から一
定量の液が出せる

約30年にわたる消費財容器のイノベーションにより、日本特有の社会的行動変容を実現
(1995～2025現在)

花王イニシアチブ：サーキュラーエコノミーシステムの構築 リサイクリエーション®の社会実装によりリサイクル・アップサイクル協創

プラスチック詰め替え容器の 回収システム/水平リサイクル技術の製品化/アップサイクル



イニシアティブと連携

企業連携：テラサイクル、カヤック、ライオン、ウエルシア薬局、ハマキョウレックス、イトーヨーカ堂、神戸プラスチックNEXT (CLOMA) 等

自治体：北海道北見市、宮城県女川町・石巻市、埼玉県春日部市、東京都、神奈川県鎌倉市・横須賀市・小田原市、徳島県上勝町、和歌山県和歌山市等

大学・研究機関：慶應義塾大学、国立研究開発法人科学技術振興機構等

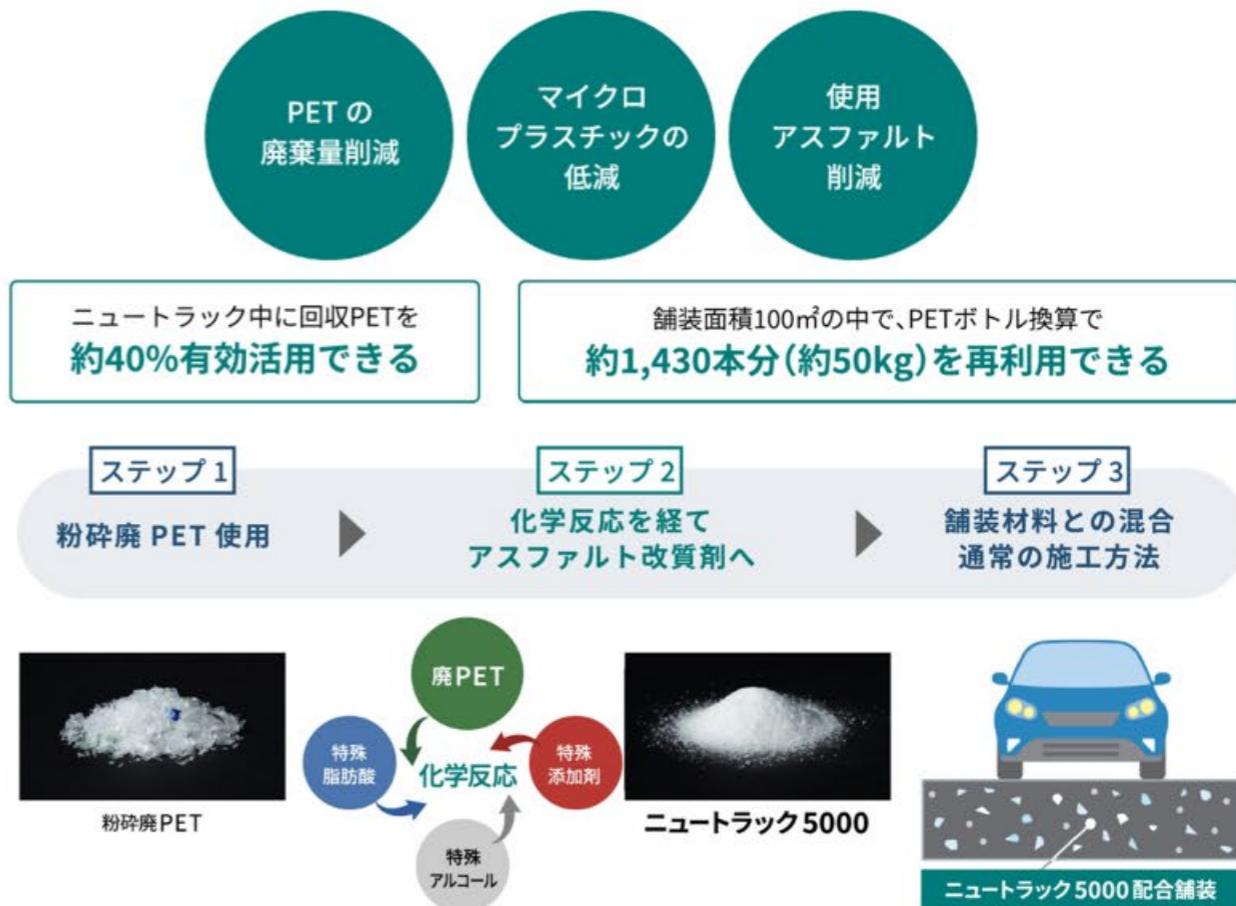
NPO：北見エコスクールSDGs協議会、サステナブルデザイン工房、カマコン、ガールスカウト神奈川県第3団、ヨコスカママナビ等

省庁：経産省、環境省等



再生材料を一部使用したつめかえパック
を初めて製品化

廃プラスチックのアップサイクルを実現する技術 アスファルト改質剤「ニュートラック」



ニュートラック中に回収PETを
約40%有効活用できる

舗装面積100㎡の中で、PETボトル換算で
約1,430本分(約50kg)を再利用できる

イニシアティブと連携
宮城県、静岡県（磐田市）、和歌山市
JR九州BRT専用道、佐川急便、AEON、ウエルシア等